

阪南みらい会議 議事録 （第 1 回）

会議日時 2010 年 2 月 1 2 日 始時 1 9 時 0 0 分 至時 2 1 時 3 0 分 場所 市役所本庁 3 階 全員協議会室	議題 1 . 市長等の挨拶、委嘱状交付、メンバー自己紹介 2 . 市の方針などの説明 3 . 今後の進め方について
出席者 委 員 1 9 名（欠席者 2 名） アドバイザー 近畿大学 久教授 事 務 局 市長、副市長、政策推進課 5 名、パシフィックコンサルタンツ（株）1 名	
配布資料 市から以下の書類が配布された。 1 . 総合計画の構成及び策定スケジュール 2 . 阪南市総合計画策定方針	

議事内容

1 . 市長等の挨拶、委嘱状交付、メンバー自己紹介

（ 1 ）市長、副市長の挨拶の後、委員に委嘱状が交付された。

（ 2 ）市側のメンバー及びアドバイザーの紹介の後、出席各委員の自己紹介が行われた。

2 . 市の方針などの説明

市が配布の資料につき、要旨の説明が行われた。

（内容）

このみらい会議において、6 月までに提言をいただくのは、基本構想の部分の将来像であるとのこと。

この会議の委員は、公募や団体の経験者という参加プロセスの違いはあるが、フラットな会議である。委員が主体となり、「阪南市の 10 年後の将来がどうなっていることを望みますか？」ということを考え、意見を取り纏めて欲しい。また、阪南市総合計画審議会に、代表として数名出て欲しい。

この会議は、委員が主体となって運営をしていただきたいため、会議の進行等は、委員の自主運営でお願いしたい。事務局は、行政主導とならないよう、サポート役となる。

3 . 今後の進め方について

今後の進め方についての協議に入ったが、委員から幾つかの質問、市側が要望の委員主体の会議進行に関する議論、委員が提言の内容のイメージをつかめない等、委員がとまどう状況となり、とりあえず、次回の会議予定を 2 月 2 3 日（火）1 9 時から開始とし、今後の進め方等協議することとして、本日の会議を終了した。

本日の会議での主要な質問、議論等の要旨は、以下の通り。

(1) 委員からの質問事項と市又はアドバイザーからの回答

質問：議員も会議に参画すべきでないか

回答：議会制度のあり方から、議員の参画は議員個人の判断に任すべきである。

みらい会議の案内を議員に送付するのも考慮してはどうか。

提言が新総合計画としてまとめられるまでに、幾つかのステップで委員や住民などがチェックする機会があり、それらを順次経て、議会に上程されるので、議会は、それらのことを念頭にして慎重に審議するでしょう。

もし、議会で否決されても、それに対する対抗手段は残されていることも考慮すべきでしょう。

(2) 市側が要望の委員主体の会議進行に関する議論

委員から、本日の説明を初めて聞いたのが実情で、右も左も分からずに戸惑いの意見が多くでた。

アドバイザーから、以下のような、他市の事例の説明があった。

- * 当初は戸惑う場面もあるだろうが、市民主体で行うことで市政への参画の意識が高揚し、将来につながると期待されている。

- * 委員を小グループに分けて意見を発表しあい、メンバーを変えて行って、いろいろな意見の人との交流をはかり、その後、全体会議で多くの意見の共通項をさぐる議論をして、提言を集約していく方法がよいでしょう。

委員から、今後の議論を行っていくうえで、これまでの総合計画の反省点の説明をして欲しいとの要望が出された。

委員から、これまでの総合計画の反省点を聞く前に、委員の想いを発表すべきとの意見があった。

会議の進行役や議事録の作成を委員が行うことについても、委員は戸惑っている状況であった。

(3) 委員が提言する内容のイメージについて

委員から、新総合計画でみらい会議が提言するもののイメージがつかめない(配布された資料の中にある、これまでの総合計画の基本理念やまちの将来像のようなものを想定しているのか?)との意見が出された。

以上